

[平成19年度参考となる技術]

[技術名] 直播コシヒカリにおける土壌タイプ別基肥一括施肥量

[要約] 直播コシヒカリの全量基肥一括施肥による籾数目標は嶺南砂壤土で 26,000 ~ 28,000 粒/m<sup>2</sup>、それ以外の土壌で 28,000 ~ 30,000 粒/m<sup>2</sup>であり、適正施肥量(10a 当たり窒素成分)は嶺北粘質土が 5kg、嶺北砂壤土が 9kg、嶺南粘質土が 7kg、嶺南砂壤土が 9kg である。

[キーワード] 水稻直播、コシヒカリ、全量基肥、施肥量、土性

[担当] 福井農試・作物・育種部・作物研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100、電子メール hidehiro\_nakajima@fklab.fukui.fukui.jp

---

[背景・ねらい]

直播コシヒカリ栽培において、全量基肥一括施肥による省力と収量、品質の安定化を図るため、嶺北、嶺南それぞれにおける粘質土および砂壤土水田での全量基肥の適正施肥量を明らかにする。

[技術の内容・特徴]

1. 収量、品質および土壌の地力窒素発現量から全量基肥一括施肥における適正施肥量(10a 当たり窒素成分)は嶺北粘質土が 5kg、嶺北砂壤土が 9kg、嶺南粘質土が 7kg、嶺南砂壤土が 9kg である(図1)。
2. 籾数はいずれの土壌においても施肥量に応じて増加するが、砂壤質土壌では増加程度は小さい(図1)。
3. 籾数の増加に伴い収量は増加し、良質粒率は低下する傾向にあるが、収量を 500kg/10a 以上、完全米率を 80%以上とするための目標籾数は嶺南砂壤土で 26,000 ~ 28,000 粒/m<sup>2</sup>、それ以外の土壌で 28,000 ~ 30,000 粒/m<sup>2</sup>である(図2、3)。

[技術の活用面・留意点]

1. 本試験は基肥一括肥料(速効性 20%、LP30 20%、LPSS 直播用 60%)の全層施肥により行った。側条施肥の場合とは肥効の発現が異なるので注意する。
2. 各地区における全量基肥一括施肥による施肥設計については、これらを参考に圃場条件や栽培履歴等についても併せて考慮する。
3. 地力窒素の発現量が多い強粘質土壌においては、倒伏による品質の低下がみられるため適正な生育管理を行う。

[ 具体的データ ]

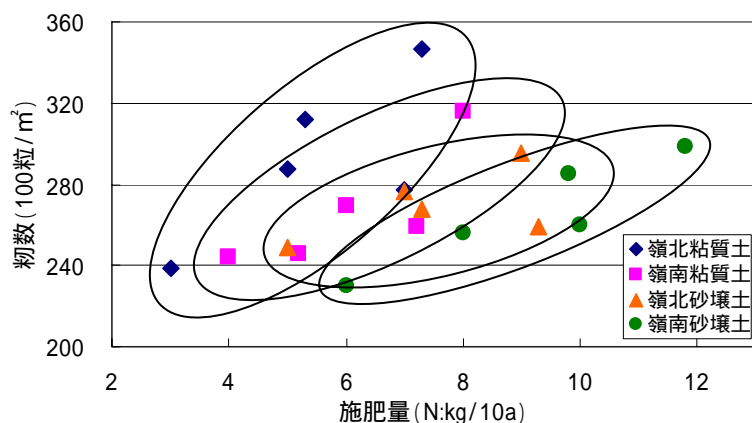


図1 施肥量と籾数の関係

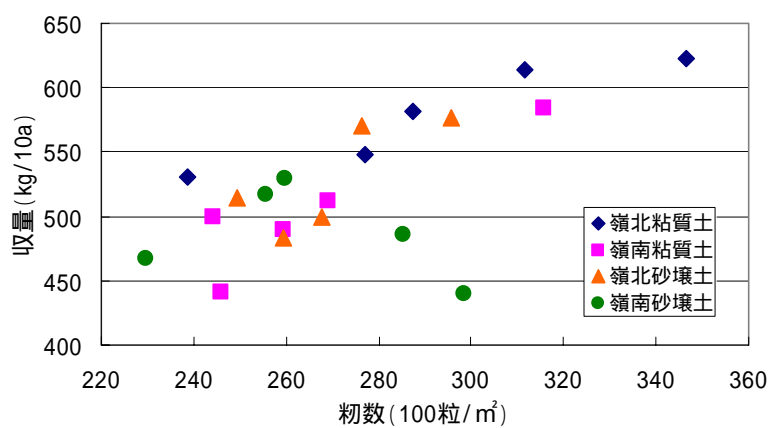


図2 籾数と収量の関係

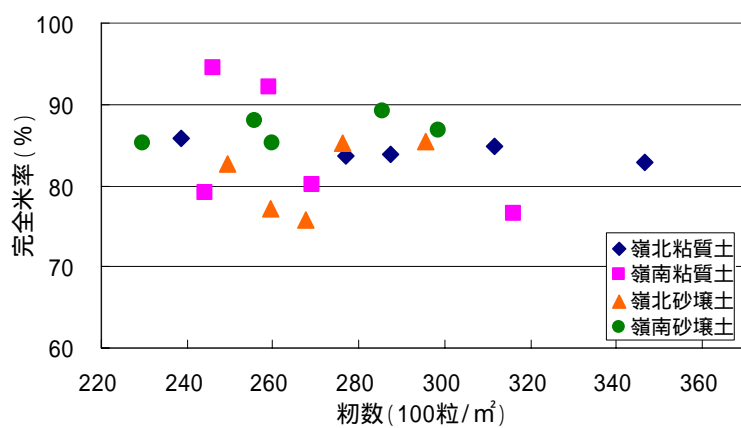


図3 籾数と良質粒率の関係

[ その他 ]

研究課題名：直播定着のための推進手法と収量品質の高位平準化技術の開発

研究期間：2003～2005年度

研究担当者：中嶋英裕、水澤靖弥、北倉芳忠、佐藤 勉、山本浩二、酒井 究、小谷佳史